

市民おもしろ塾

市議1年半の所感は 昨春当選5氏がプレゼン

昨年4月の能代市議選で初当選した5氏がプレゼンテーションする「当選1年半後の所感とこれからへの想い」が23日、市文化会館

中ホールで開かれ、市議各氏が自身の活動を振り返り、2年半ある残りの任期に向け決意を語った。市民おもしろ塾（渡邊耕佑代表）主催で、相場未来子（共産党）、阿部誠（平政・公明党）、今野孝嶺（希望）、

鍋谷暁（希望）、藤田拓翔（平政・公明党）の5氏が参加し、約20人が聴講した。市議は50音順に登壇し、これまで6回あった定例議会の一一般質問で提案した内容やその成果、議員の難しさなどを率直に話した。



能代市議5氏が順にプレゼンした「当選1年半後の所感とこれからへの想い」（市文化会館中ホールで）

今野氏は提案型の質問で当局の方針をただしてきたとし、「多くははね返されたが、提案をして化学反応が起すことで市の発展がある。職員は知識があり、なかなか太刀打ちできない。テーマを減らし内容を深め

て、めげずに質問したい」と話した。鍋谷氏は、市民代表としての立場を常に意識しながら活動していると説明。最大派に所属し提案型の

最後は市議を7期27年務め、市民おもしろ塾運営委員の松谷福三氏が予算書、決算書が読めない議員は失格、「意見の主張は覚悟が必要」などと厳しくも熱いエールを送った。

相場氏は、議会は地方自治体が本来の役割を果たしているか、市民の利益になる政治を行っているかチェックする役割を担うとし、「市民と共に声を上げることが変化をもたらす。市民の声にならない声、切実な願いを市に届けるのが議員の役目」と力説した。阿部氏は、街なかのにぎわいが市全体のにぎわいにつながるとし、多くの人にまちづくりに関心を持ってほしいと強調。洋上風力や製材大手の進出などで能代に追い風が吹いているとし「明るい未来がある。待つのでなく行動することが求められている」と語った。

藤田氏は市議会の議決により市の予算や事業などが決まっていくことに「責任の重さを感じる」と所感。基本的な心構えとして「ちゃんとした人になる。感謝の気持ちをお忘れなさい」ことを重視しており、「先人の思いを受け止め、次世代にバトンを渡したい」とした。今後への決意表明を求められ、相場氏は「市民の切実な声を聞き、誰もが自分らしく生きられる能代を実現させたいという思いが強くなっており、頑張りた

い」、阿部氏は「大変な屋根の雪下ろしも1人でなく仲間と行えば楽しく早い。1人、1団体で頑張っている人がいるので寄り添い、励まし支える人になりたい」と述べた。今野氏は子育て支援や農業など分野を絞って深掘りしていく考えで「めげずに粘り強く自分の考えを繰り返し主張したい」と話した。鍋谷氏は県内最年少の大館市議が大館市長選に出馬するニュースを取り上げ「若手の仲間から刺激をもらいたい」、藤田氏は「能代を良くするため手を取り合い、同じ方法に向かって努力する」と決意した。